伝説　へと至るモス

ガータナ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
伝説　へと至るモス

【Ｎコード】
Ｎ５７３４Ｚ

【作者名】
ガータナ

【あらすじ】
一人の転生者がいた。その転生先は何とモス！？
さあ、モスに転生させられてしまった彼の運命は！？
なんていうただのネタです。

（前書き）

これをクリックしていただいてありがとうございます、ツッコミどころ満載、文才皆無の稚拙以下の物ですが読んでいただければ嬉しいです。

思いつくままに書いてたらこの様だよ！

祖龍ミラルーツの幼生を見たことがあるだろうか？いや実在するのだろうか？
まあ、ゲームだからそんなものいなくても問題は無い。だがあくまでもそれはゲームだからだ。
もし実際にモンスターハンターの世界に転生してしまえば、そんな言い訳は通じない。今の俺がそうだ。

とある噂話がある、ミラルーツの幼生ってケルビなんじゃねえの？
なぜそんな噂話が出たか？それを語るにはまずケルビとキリンの動きって似てるよね、という話からキリンとミラルーツって同じ雷扱うよね色も似てるしってところから話さないといけない。

・・・あれ、もう全部言っちゃってるじゃん。それはともかくそんな噂話があることを頭に入れていただきたい。
ここまで言っちゃってるけど俺はケルビに転生したわけでもない。
ましてやキリン、ミラルーツなんてこともない。

ではなにか？生ｎ・・・モスだ。

話しは最初に語った事に似ているが、こんな噂話がある。
グラビモスの幼生はバサルモスだ。少し話はずれるが言わせてほしい、お前みたいな幼生・・・今さらだが幼生とは卵から孵化して、独立に栄養を取り、成長して親になるまでの間の個体簡単に言ってしまえば子供のことなのだがお前みたいの子供がいるか。

そこでこんな噂話が流れた、バサルモスのさらに幼いころってモス

なんじゃね？
理由は　グラビ”モス”、バサル”モス”、”モス”ここまで言えば分かるろう。モス繋がりだ。

はい、というわけでモスに転生しちゃいました。というわけで吾輩はモスである。名前はまだない。
さて、現実逃避もここまでにしてどう生きていくべきか。

さて、現状把握と行こうか、まず俺はトラックに轢き殺されて神とやらに合った。こ〇亀の世界に転生したいと言ったら拒否されてランダムに選ばれた世界に転生させられた。
こち亀を選んだ理由はなんとなくだ。神と出会った部屋の奥にエベレストの如く詰まれた漫画などがあったからひょっとしてと思ってこち亀にしたら案の定拒否られた。なぜかその隣にバカでかい鎌があった。神は神でも死神じゃねーかと思ったのは内緒だ。
そして今に至る、なぜかデフォルトでチートがついていた。

なので流れとしては
1、俺殺される。
2、（死？）神にであう

3、転生させてあげるよと言われる
4、こち亀キボンヌ
5、拒否
6、ランダムで転生
7、モンハンの世界に転生
8、人間とか飛竜や古龍でもなくモスに転生
9．俺錯乱
10、チートがついてたため親モスを殺害という結果に。
11、どうしよう↑今ここ

モスの子供って何食べるんだろうな？・・・ハッ！？そういえば聞いたことがあるぞ、主に鉱石を主食としていたモスがバサルモスへとなれるというと都市伝説を！！！
生まれたばかりでそんな物食えるわけないし、キノコも・・・食えんのか？
よし、詰んだ／（＾０＾）／
いや、諦めずに必死に生きていこう。

1日目

俺誕生（モスに転生）、そして親殺（モス）しの大罪を犯す。

飯どうすんの？オワタ＼（＾０＾）／
仕方ないので親モスの肉を食べる、吐いた。モスって草食やん・・・
親モスの背中に生えているキノコを食べる。うめえ。
どっちが父親でどっちが母親かぱっと見では区別はつかない、一生を一人身で追えそうだ。
直感的には分かったのだが、それは親子だからだろう。父親にはキノコが生えておらず母親の方にだけキノコが生えていた。
アオキノコうめえ

2日目

初日は何も行動できずに終わったので周りを探索してみることにする。イーオスがいたので3ｒｄではないだろう、とりあえず2Ｇの世界だろうと思うことにする。それとここは火山のようだ旧火山かわからない。
鉱石を食べてみた、吐いた。もうちょっと成長してから挑戦してみよう。バサルモスになるために・・・

3日目

イーオスに襲われる。チートボディのおかげで返り討ちにする。
そう言えば火山にモスはいなかった気がする。おそらくゲームで登場しなかっただけでいるのだろう。
それともなんだ、俺の親モスは火山にキノコがあると思っていたのか。ば～っかじゃねえの。
とりあえず食事はアプケロスさんとともに食事をしている。こちらから仕掛けなければ向こうも仕掛けてこない※ただしハンターてめえはだめだ。

４日目
特に記述することは無い。

１０日目
なぜかキノコを生えている場所を発見する。
早速食べてみた。マヒダケだった、ビクンビクン

１１日目
諦めずにチャレンジ
毒テングダケだった、ブクブクと泡を吹く。
とりあえず俺がチートじゃなかったら死んでいた。毒テングダケやばい。

１２日目
モスの性か、懲りずにチャレンジ
アオキノコだった。お袋の味だ。うめえ

１３日目
希望を持ってチャレンジ
ドキドキノコだった。
生まれた場所に戻された・・・モドリ玉?調合してねえよ。

１４日目
キノコ！！キノコ！！キノコ！！！！
さ～て、本日のキノコは～～
特産キノコキターーーーー！！！！！！！！！
マジうめえ。

１５日目
どうやら俺はこの世の天国を味わってしまったようだ。

ええ、厳選キノコです。
たまらぬな、この味を知ってしまってはもうほかの者が食えぬではないか。
バサルモスになるの諦めるか。

なんて事をやっているうちに2年が過ぎ体が大人モスと大して変わらないまでに成長した。
豚の寿命なんざ知らないミニブタの場合１０～１５年らしい。とりあえずこれぐらいしか知らないのでこれぐらいだろうと仮定していくことにする。
そもそも豚って天寿を全うすることはほぼないだろう。家畜だし。

それにいつまでもキノコばかり食べているわけにもいかない。
今まではチートの上に胡座をかいていたのだが、そうもいかなくなってきた。
その理由はこの前初めて飛竜を見たのだ。もちろんモスごとき眼中にないわけだから見逃されたがあの時の恐怖って言ったらもうないね、絶対的な力の差を感じたよ。
チートがあれど　種族というチートには　勝てはしない。字あまり、川柳にすらなってねえや。

そこで俺はバサルモスと目指すとこにした。キノコをやめ鉱石を食べる！！！
そうして俺のキノコ絶食の日々が始まった。

そしてついに俺が生まれてから5年目、皮膚が硬くなってきた。
ここまでたどり着くのには相応の苦難があった。

ハンターが邪魔だからという理由で襲いかかってきたのでサイドステップでよけ、着地の瞬間にハンターめがけて突進、吹きとばしたり。ガンナー相手にジグザグ進みながら向かっていって吹きとばしたりと。
散弾いてえっす。

ハンター以外にも向かってくる敵屠ったり、逃げたりした。
鳥竜種なら上位までなら狩れた、イャンガルルガは無理だが、先生と先生亜種とヒプノックは狩れた。
だけどそれ以外の竜は無理だ、それに今まで鉱石を食べてきたせいか、最近体が重く感じる。

どうやら俺はバサルモスになれる選ばれた”モス”ではなかったようだ。
体が重い、足を動かそうと思ってもまるで石みたいに固まっていて動かすことができない。
俺はひょっとして死ぬのか？皮膚が硬くなれば柔軟性に欠ける。体を動かすことができない。どうしてこうなった？
俺がただ強くなりたかっただけだ、何物にも脅かされずに生きたかった。ハンターの剣をいともたやすく弾くあの体が羨ましかった。

俺はここで死ぬのか？
いや、今まで何人もの向かってきたハンターを返り討ちにしてきたんだ、十分強さの証明にはなっただろ。
ああ、でも最後に憧れの対象のあいつに会いてえな、５年間も火山にいたけど竜種と会うことは稀だった。イーオスを除いてだが
そうだ、あいつは火山の中によくいるんだ、行こう。最後の希望を託して
俺は動かない脚を無理やり動かす。どうせもう長くは無いんだ、燃

えろよ、最後の一瞬なんだ、激しく燃えろよ・・・そう線香花火のように！！
脚が悲鳴を上げる、脳が痛みを感じ脚を止めるように言ってくる、だからどうした、体の痛みなんざよりも心の痛みの方が何倍も痛い。俺はいったい今まで何のために生きてきた？バサルモスにはなれなかったけどせめてその上を1目見るくらいいいだろう？
だから動けよ、本当のグラビモスがいなくたっていい、幻覚だってかまわないんだ。
せめて、俺に教えてくれよ。俺の目指す先にあんたがいるんだって。
なあ、グラビモス？

俺は体中に痛みを感じながらも歩を進め、火山へとはいっていく、そして俺の目に飛び込んできたのは白い巨体だった。バサルモスなんかよりもずっと大きい。
俺は生まれて初めてグラビモスを見た。
ああ、あんたが俺の目指す先か、なんて大きいんだろう。
自然と目から涙があふれてくる。

そして自然と足がグラビモスに向かっていった、それは歩くという動作ではなく、突進だった。
俺は何をしている？
頭の中では俺はずっと静止していた、ただグラビモスを見れただけで満足だった。だけど心と体は違ったようだ。
心は一種の自殺願望、体は今までの努力、キノコを食わずに鉱石を食べ続けたプライド、本物に負けたくないという意地。

どうやら俺はグラビモスに敵としてみてほしいようだ。
俺は頭を切り替え通常の突進よりはるかにゆっくりだが、突進を続

ける。

「なあ、俺を敵として見てくれよ、あんたの必殺技、グラビームで俺を殺してくれよ」

俺はもうまともに動かない口で彼の呻くような声で言葉を紡ぐ。
そんな俺の声が届いたのかはたまた何かの気まぐれか、グラビモスが俺の方を向き、体をややのけぞらせ、溜めを作る。

「ありがとう、グラビモス」

俺は涙を流し感謝する。やっぱりあんたは俺の憧れだよ。
そう思いながら俺は熱線を受ける。不思議と痛みは無く、一瞬で意識が途切れた。

ポッケ村には一つの都市伝説のような話がある。
それは一匹のモスの話し。
その体は鉄のように硬く、何人ものハンターを返り討ちにしたという到底信じることのできない酒の摘まみにもならないような馬鹿げた話。
だけども、それは現実でそのモスはいつのまにか姿を消していた。
ポッケ村の人々は彼のことをこう呼んだ。
ドスモス、と

（後書き）

最後まで読んでくださりありがとございます、
ちなみに真のこれのタイトルは都市伝説笑へと至るモスです。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5734z/

伝説　へと至るモス

2011年12月19日08時54分発行